

協議案第14号

新市建設構想の骨子（案）について

新市建設構想の骨子（案）

【論議・検討資料】

平成 15 年 9 月

帯広市・芽室町・中札内村任意合併協議会

この資料は、「新市建設構想」の策定に向けて、任意合併協議会において論議・検討を行うにあたって、各委員の論議の参考としていただくための資料として作成したものです。

今後、任意合併協議会における様々な論議、住民意向調査結果等を踏まえて、成案化に向けた取り組みを進めていきます。

目 次

1 . 新市建設構想の策定趣旨	1
2 . 3市町村の合併の意義と必要性	1
3 . 期待される合併の効果	2
4 . まちづくり構想	3
(1) 新市の特性	3
(2) まちづくりの基本方向	5
(3) 新市の将来地域構想	7
(4) 地域の発展方向	8
(5) 地域振興策の検討	11
(6) 地域自治組織の考え方	13
(7) 北海道等の事業	14
(8) 将来人口の想定	15
(9) 公共施設の統合整備	15

1 . 新市建設構想の策定趣旨

- ・ 合併後のまちづくりの可能性を具体的に示すこと。
- ・ 合併市町村建設計画の基礎となる構想を示すこと。
- ・ 住民に合併の判断材料として示すこと。

2 . 3市町村の合併の意義と必要性

- ・ 生活経済圏の拡大と一体化に伴う効率的、効果的行政の実現
歴史的、社会経済的に深い結びつきのもとに発展してきた3市町村は、日常生活経済圏の一体性、基幹産業の共通性などを背景に、一体的な都市形成をすすめ、拡大する行政需要に的確に応えらるとともに、効率的、効果的な行政運営により住民福祉の向上を図る必要がある。
- ・ 分権時代の自主・自立のまちづくりを可能とする自律性のある地方政府の実現
地方分権時代における自主・自立のあるまちづくりを実現するため、個性と魅力ある地域を形成する観点にたって、地域の意思と責任に基づく地方政府（自治体）を確立する必要がある。
- ・ 時代潮流を踏まえて住民ニーズに的確に対応する行財政基盤の強化
少子高齢化、国際化、高度情報化等の時代の大きな変革期にあって、社会経済状況の変化等を踏まえ、多様な住民ニーズに的確に対応しな

から、質の高い行政サービスの提供を可能とする行財政基盤の強化を図る必要がある。

- ・ 将来の持続的な地域発展の基盤づくり

基幹産業である農業を核にしながら地域産業の複合化等を進め、広域交通の拠点性を活かしつつ多様な都市機能を集積を図りながら、将来にわたって地域が持続的に発展をとげるための基盤づくりが必要である。

3 . 期待される合併の効果

- ・ 住民の生活利便性の向上

公共施設の利用や福祉施設等の利用が可能となるほか、サービス窓口が増加するなど、住民の日常生活上の利便性の向上が期待できる。

- ・ 多様で高度な行政サービスの提供

単独では設置が困難であった新たな行政需要に対して、多様で高度に専門性をもった行政サービスの提供が期待できる。

- ・ 広域的な地域課題への一体的な対応

産業の活性化、環境の保全、交通ネットワークの形成など、広域的な地域の課題に対し一体的で効果的な対応が可能となることが期待できる。

- ・ 行政経費の削減

複数の自治体が合併することにより、管理部門をはじめ共通部門の

集約等による一般職員の削減をはじめ、特別職・議会議員数の減少など、行政経費の削減が期待できる。

- ・ 効率的・効果的な行財政運営の確保

公共施設の適正配置、行政サービスの一元化、共通事業の統合などにより、効率的、効果的な行財政運営の確保が期待できる。

4 . まちづくり構想

(1) 新市の特性

新市が有する自然的、社会的、経済的な諸条件等を踏まえつつ、考えられる特性について検討する。

- ・ 全国有数の多様な「食」生産機能を有する都市

新市の農業産出額は、十勝圏の4分の1を占め、市では全国トップクラスに位置する規模を有し、食料品製造業等の食関連企業の集積も高く、農産物の生産から加工、流通までの多様な「食」の生産機能を有する都市となることから、その機能をフルに活用することにより、“十勝ブランド”の可能性を更に高めることが期待できる。

- ・ 産業が複合的に結びつく成長力を有する都市

新市の北部を東西に貫通する国道38号沿道に広がる帯広工業団地及び芽室東工業団地等は東北北海道最大で道内第3の規模を有し、管内製造品出荷額等の45%を占める産業拠点を形成しており、帯広都心部等には十勝圏の商業業務機能が立地するなど、新市に集積する第1次

産業から第3次産業までの地域産業が複合的に結びつくことにより、より高い経済成長力を有する都市となることが期待できる。

- ・ 豊かな自然や田園空間を有する都市

わが国でも有数の自然環境を有する日高山脈、清流日本一の札内川を擁するとともに、大規模農業が展開される一大田園空間が広がり、魅力ある観光拠点の形成や多様でゆとりと魅力にあふれる“田園ライフ”が展開される都市となることが期待できる。

- ・ 広域交通・情報ネットワークの拠点機能を有する都市

新市は、北海道横断自動車道、帯広尾自動車道、幹線国道、空港、鉄道などの広域交通のネットワーク及び情報ネットワークの拠点としての機能を有することから、その機能を最大限に活用することにより、地域の産業・経済の活性化はもとより、生活・文化、地域間交流などがさらに活発化することにより、地域の発展の推進力となることが期待できる。

- ・ 「職・住・遊・学」のバランスのとれた都市

新市は、十勝圏の中核都市として魅力ある雇用の場の確保はもとより、都市型から田園型までの多様な居住環境の創出、スポーツ・レクリエーション施設、高等教育機関等の集積など、「職・住・遊・学」の多様な都市機能がバランス良く備わった総合的な都市生活空間を有する、自立的な成長を牽引する都市となることが期待できる。

- ・ 東北海道の中核拠点機能を有する都市

新市は、高速交通ネットワークの整備により、道央圏と東北海道を結ぶ玄関口の機能を担うことから、産業・経済、教育・文化、国際協

力等の都市機能の集積を最大限に活かすことにより、今後、十勝圏の中核都市としての役割はもとより、十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏の3圏域からなる東北海道の中核的な拠点機能を有する都市に発展していくことが期待できる。

(2) まちづくりの基本方向

新市の特性等を活かしながら、新市において進めていくまちづくりの基本的な方向性を、以下の8つのジャンル別に検討する。

都市

- ・ 自立的な発展を牽引する都市機能の強化

十勝圏の中核都市はもとより、東北海道の中核的な拠点機能を担うことが期待できることから、自立的な成長・発展を牽引する様々な都市機能の集積を進める。

農業

- ・ 農業を核にした厚みのある「食」生産機能の向上

基幹産業である農業を核に地域の発展を図るため、1次から3次までの多様な「食」の総合的生産機能をさらに高め、安心・安全な食料供給基地の形成を進める。

商工業・観光産業

- ・ 地域の特性、資源を活かした地域産業力の向上

十勝ブランドとして評価されている安全・良質な農産物の生産、冷涼で国内有数の日照時間を有する気象条件などを活かし、十勝型の産

業クラスターの形成を進めるなど、地域産業の発展力を高めていく。

- ・ 豊かな自然や田園空間、食文化等を活かした観光拠点の形成

国内有数の自然環境や田園空間、多様な食文化などの観光資源を活かし、魅力ある観光の拠点の形成を進める。

環境

- ・ 自然と共生する循環型地域社会の形成

豊かな自然環境を次代に継承していくため、自然環境の保全や資源循環型の地域社会づくりを進める。

福祉

- ・ 安心して暮らせる地域福祉のまちづくり

少子高齢社会において住民が安心して地域社会の中で暮らすことができるように、子育て環境や地域における保健・医療・福祉の充実を進める。

交通・情報

- ・ 高速交通・情報ネットワークを活用した広域拠点性の向上

高速道路等の広域交通のネットワークや情報ネットワークの機能の整備充実を図ることにより、新市が広域的に担いうる拠点性を高め、地域の発展に結びつけていく。

教育・文化

- ・ 生き生きとした個性を育む教育・文化の推進

将来の地域の担い手である子供たちが健やかに生まれ、生涯を通し

て生き生きと暮らすことができる環境づくりを進めるとともに、個性ある独自の地域文化の醸成を進める。

自治

・分権時代における自治・協働型まちづくりの推進

地方分権の時代における住民主体の意思と責任によるまちづくりのため、自治の理念に基づく住民と行政の協働型のまちづくりを可能とする環境づくりを進める。

(3) 新市の将来地域構造

新市の特性等を活かしながら、新しいまちづくりを進めていくために、自然的、社会経済的諸条件、土地利用現況等を踏まえながら、地域の大まかなゾーニングを以下の区分で検討する。

- ・大きなゾーニングは、都市ゾーン、工業ゾーン、農業ゾーン、自然ゾーンの4区分で検討する。
- ・市街地及び集落は、規模、機能等を踏まえて、A 拠点都市エリア、B 拠点市街地エリア、C 拠点集落エリア、D 都市近郊集落エリアの4区分で検討する。

(4) 地域の発展方向 (地域が担う役割)

地域の特性、資源、都市機能等の集積状況などを踏まえ、新市が一体的な発展を図る可能性を見出すことができる方向で、各地域が担う役割の考え方について検討する。

ゾーンごとに考えられる方向性

都市ゾーン：主に都市計画区域内の市街化区域並びにその近傍及び西帯広・芽室間

A 拠点都市エリア

- ・ 都市計画等に基づき都市機能、商業業務機能等を集積する地域
- ・ 快適な住環境を有する新市街地を形成する地域

工業ゾーン：国道 38 号沿道に連坦する工業団地及び隣接地域

- ・ 良好な交通アクセス環境を有する工業・流通系企業の集積を進める地域

農業ゾーン：芽室町から帯広市及び中札内村に連なる農業地帯

- ・ 厚みのある農業を展開する地域
- ・ 産学官連携による先進的農業技術を開発する地域
- ・ 田園空間を活かした農村観光を展開する地域

B 拠点市街地エリア：中札内市街地、大正市街地

- ・ 基礎的都市機能を有する田園型の居住環境地域

C 拠点集落エリア：上札内市街地、清川市街地、広野市街地、
上美生市街地

- ・ 農村における拠点集落としての生活環境を有する地域

D 都市近郊集落エリア：川西市街地、愛国市街地

- ・ 都市近郊の拠点集落としての生活環境を有する地域

自然ゾーン：日高山脈から連なる山岳及び山麓部

- ・ 豊かな自然を保全するとともに環境と調和した観光活用をはかる地域

地域ごとに考えられる発展の方向性

帯広地域

- ・ 十勝圏の中心都市としての顔づくり
- ・ 高次都市機能等の都市機能の集積
- ・ 産業業務施設、商業等の集積
- ・ 多様な居住環境の創出
- ・ 農業の振興
- ・ 観光コンベンション等の交流拠点

芽室地域

- ・ 工業、流通業等の集積
- ・ ゆとりある快適居住環境の創出
- ・ 農業の振興
- ・ 農業研究開発の拠点
- ・ 観光拠点の形成

中札内地域

- ・ ゆとりある田園型居住環境の創出
- ・ 農業の振興
- ・ 観光拠点の形成
- ・ 自然環境の保全・活用

(5) 地域振興策の検討 (想定される振興策の例示)

各市町村の総合計画及び諸計画等を踏まえ、まちづくりの基本方向、地域の発展方向などを勘案しながら、合併市町村の一体性の速やかな確立及び住民の福祉の向上等を図るとともに、合併市町村の均衡ある発展に資する観点で、以下の施策の区分を基本に検討を進める。

都市基盤・交通

- ・住宅地の整備
- ・田園型住宅の整備
- ・公共下水道の整備、集落排水施設の整備、個別排水処理施設の整備
- ・上水道の整備
- ・公園の整備
- ・公営住宅の整備
- ・道路網の整備
- ・サイクリングロードの整備
- ・霊園の整備

産業

- ・農業基盤の整備
- ・農業の担い手育成事業
- ・産業支援センターの整備
- ・アグリ・リサーチ&ビジネスパーク構想の検討

- ・ IC 周辺の利用構想の検討
- ・ 職業訓練センターの整備
- ・ 観光拠点の整備
- ・ 観光 PR 事業

保健・福祉

- ・ 保健福祉センターの整備
- ・ 医療機能の確保
- ・ 高齢者福祉施設の整備
- ・ 障害者福祉施設の整備
- ・ 保育サービスなどの子育て支援施策の充実
- ・ 保育所の改築整備

環境

- ・ 自然環境の保全
- ・ 耕地防風林の保全
- ・ 十勝川、札内川等の河川緑地の整備
- ・ 自然を活かした河川環境の整備
- ・ 自然体験学習機能の整備
- ・ 水と緑のネットワークの形成

教育・文化

- ・ 義務教育施設校舎の改築整備
- ・ 高等学校教育の環境整備

- ・ 芸術村の整備
- ・ 屋内スピードスケート場の整備
- ・ 青少年総合センターの整備
- ・ 大学の整備
- ・ 図書館ネットワークの整備
- ・ 郷土歴史資料の保存・整備

コミュニティ

- ・ 地域集会施設の再編統合整備
- ・ 新市コミュニティ形成推進事業（地域振興基金）

消防・防災

- ・ 消防車両、高規格救急自動車の整備
- ・ 消防署・分署等の整備

自治体経営

- ・ 地域振興基金の設置
- ・ 庁舎間OAネットワークの整備
- ・ 行政基本条例の制定
- ・ まちづくり情報センター機能の整備
- ・ 新市史の統合発刊（本編・史料編）

(6) 地域自治組織の考え方

- ・ 地域ごとに地域審議会の設置を含めて検討する。
- ・ 地域振興基金の設置（再掲）

(7) 北海道等の事業

北海道に支援を要請する事業

- ・ 道道芽室東 4 条帯広線の拡幅整備
- ・ 圏域南外環状線（一部川西芽室音更線）の整備
- ・ 道道川西芽室音更線の整備
- ・ 道東瓜幕芽室線の整備
- ・ 道道停車場線の整備
- ・ 道道静内中札内線の維持管理
- ・ 道道清水大樹線の整備
- ・ 道道豊頃糠内芽室線の整備
- ・ 北海道立十勝農業試験場の改築
- ・ 帯広警察署の改築
- ・ 農業高等専門学校を設置

国等に支援を要請する事業

- ・ 北海道横断自動車道の整備
- ・ 帯広広尾自動車道の整備
- ・ 国道 38 号の整備

- ・ 国道 236 号の整備
- ・ 十勝川河川整備
- ・ 札内川河川整備
- ・ JR 根室線新駅の設置検討

(8) 将来人口の想定

各市町村の自然動態、社会動態などの人口動態の推移を踏まえるとともに、各市町村の総合計画及び都市計画マスタープラン等の諸計画との調和を図りつつ、推計を行う。

(9) 公共施設の統合整備

住民生活に急激な変化を及ぼさないように十分に配慮し、地域の特殊性や新市域全体の施設配置バランス、財政状況等を考慮しながら、効率的に統合整備することを基本に検討する。

また、公共施設の整備及び管理の手法について、民間活力の活用など、幅広く検討する。

(将来地域構造のイメージ図)

下記の項目等を図化し、別途作成する。

- ・北海道横断自動車道、帯広広尾自動車道、国道、主要道道、空港、鉄道等を表示
- ・主要な公共施設等の現況を表示
- ・ゾーン及び市街地系エリアを表示
- ・その他